

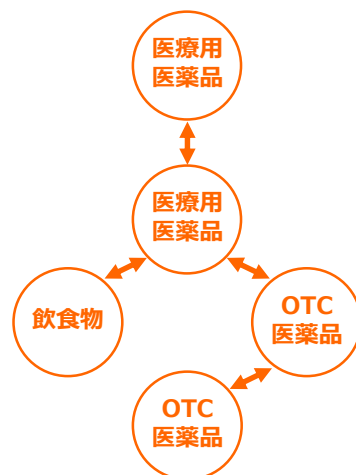
データベースの概要

医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての相互作用の情報に関するデータベースです。

相互作用チェックの結果として、添付文書の該当箇所の「併用薬剤名」や「併用飲食物」、「発現事象」、「理由」などを表示することが可能です。

また、内服薬、外用薬、注射薬を問わず、右図の組み合わせにおける相互作用のチェックを行うことが可能です。

OTC医薬品同士の組み合わせについても、相互作用のチェックを行うことが可能です。



データベースの特徴

6段階のレベル分け

添付文書の相互作用の情報を以下の6段階のレベルに区分しているため、選択したレベルの範囲でチェックを行うことが可能です。

 高 低	レベル	添付文書の記載表現
	禁止	禁忌、禁止、併用しない、併用（投与）を避ける など
	原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として併用（投与）しない など
	相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ併用（投与）など
	希望禁止	併用（投与）しないことが望ましい など
	慎重投与	慎重投与、慎重に併用する など
	注意	併用注意、注意、留意 など

※添付文書の同一項目内に複数の異なるレベルの記載があった場合には、高いレベルを採用しています。

例

【併用注意】の項目（「注意」レベルに該当）に「相対禁止」レベルの記載がある場合は、「相対禁止」のレベルを適用しています。

『サーティカン錠0.25mg』の添付文書（抜粋）

3. 相互作用 (2) 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リファンピシン	本剤の血中濃度が低下することがあるの で、併用する場合には治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。	これらの薬剤の代謝酵素（CYP3A4等）誘導作用により本剤の代謝が促進されると考えられる。

▶ 相対禁止

相互作用項目以外の記載に対応

添付文書の【相互作用】以外の項目に相互作用に関する記載がある場合についても、漏れなくチェックを行うことが可能です。

なお、添付文書の記載項目の選択に応じたチェックを行うことや、相互作用以外の項目に記載されている情報について、チェックを除外することも可能です。

例

『ヴォトリエント錠200mg』の添付文書の【相互作用】の項目に「QT間隔を延長させる可能性のある薬剤」の記載はありませんが、【慎重投与】の項目に記載があるため、両薬品の併用は「慎重投与」となります。

『ヴォトリエント錠200mg』の添付文書（抜粋）

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(5) QT間隔延長の既往のある患者、抗不整脈薬や他のQT間隔を延長させる可能性のある薬剤を投与中の患者【QT間隔延長や心室性不整脈をおこすおそれがある。】（「2. 重要な基本的注意」、「4. 副作用(1)重大な副作用」の項参照）

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法
「QT間隔を延長させる可能性のある薬剤」の記載はありません	

【相互作用】の項目には記載がないものの、【慎重投与】の項目の記載により『ヴォトリエント錠200mg』と「QT間隔を延長させる可能性のある薬剤」の併用は**慎重投与**

相手薬の副作用に関する記載に対応

上記の「相互作用項目以外の記載に対応」の例のように、相手薬が「QT間隔を延長させる可能性のある薬剤」のような副作用に関する記載の場合でも、該当薬との併用について漏れなくチェックを行うことが可能です。

例

『レクサプロ錠10mg』の添付文書には、【重大な副作用】の項目に「QT延長」が記載されているため、『ヴォトリエント錠200mg』との併用は「慎重投与」となります。

『レクサプロ錠10mg』の添付文書（抜粋）

4. 副作用

(1) 重大な副作用

4) QT延長（頻度不明）、心室頻拍（torsades de pointesを含む）（頻度不明）

QT延長、心室頻拍（torsades de pointesを含む）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

相互作用のチェック結果例

『ヴォトリエント錠200mg』

【項目】慎重投与の項

【併用薬剤】QT間隔を延長させる可能性のある薬剤投与中『レクサプロ錠10mg』

【発現事象】心室性不整脈、QT間隔延長

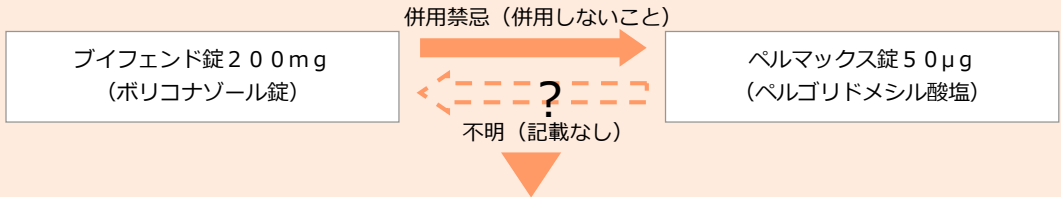
【指示】**慎重投与**

一方通行の記載に対応

自薬か相手薬のどちらか一方の添付文書にしか相互作用の記載がない場合でも、漏れなくチェックを行うことが可能です。

例

『ブイフェンド錠200mg』の添付文書の【相互作用】の項目には、「麦角アルカロイド」の記載があります。一方、成分が麦角アルカロイド誘導体である『ペルマックス錠50μg』の添付文書には、『ブイフェンド錠200mg』との併用に関する記載はありませんが、両薬品の併用は「禁止」となります。



相互作用のチェック結果例

『ブイフェンド錠200mg』
 【項 目】相互作用（併用禁忌）の項
 【併用薬剤】麦角アルカロイド『ペルマックス錠50μg』
 【発現事象】血圧上昇が増加し麦角中毒
 【指 示】**禁止**
 【理 由】本剤はこれら薬剤の代謝酵素（CYP3A4）を阻害

相手薬の薬効群記載に対応

相手薬が薬効群で記載されている場合や、具体的成分名が“等”で包括された記載となっている場合でも、対象薬品全てと漏れなくチェックを行うことが可能です。

例

『ハルシオン0.125mg錠』の添付文書に『プレジコビックス配合錠』の記載はありませんが、『プレジコビックス配合錠』はHIVプロテアーゼ阻害剤の一種であるため、両薬品の併用は「禁止」となります。

『ハルシオン0.125mg錠』の添付文書（抜粋）

3. 相互作用		
(1) 併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
<省略> HIVプロテアーゼ阻害剤 インジナビル (クリキシバン) リトナビル (ノービア) 等 <省略>	本剤の血中濃度が上昇し、 作用の増強及び作用時間の 延長が起こるおそれがある。	本剤とこれらの薬剤の代謝 酵素が同じ（CYP3A4）で あるため、本剤の代謝が阻 害される。

相互作用のチェック結果例

『ハルシオン0.125mg錠』
 【項 目】相互作用（併用禁忌）の項
 【併用薬剤】HIVプロテアーゼ阻害剤『プレジコビックス配合錠』
 【発現事象】本剤の血中濃度が上昇し作用の増強及び作用時間の延長
 【指 示】**禁止**
 【理 由】本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ（CYP3A4）であるため、本剤の代謝が阻害

※外用薬の相互作用に関しては、その全身作用について臨床現場の使用法や先生方の考えが様々であることから、相互作用のチェック対象としています。但し、外用薬の判別情報を保持しているため、除外することが可能です。

※相手薬が薬効群での記載の場合、当該薬効作用を主とする薬品に加え、当該薬効作用を多少なりとも有する薬品についても、安全性を重視し、相互作用のチェック対象としています。

医療用医薬品と飲食物などとの相互作用に対応

飲食物やその代表的な成分および日用品などと、医療用医薬品の組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

例

飲食物などの例

【飲料】

コーヒー、紅茶、緑茶、牛乳、コーラ、ビール、ワインなど

【食品】

グレープフルーツ、バナナ、ニンジン、セロリ、コンブ、ワカメ、マグロ、チーズ、チョコレート、納豆など

【日用品など】

タバコ、石鹼、殺虫剤など

相互作用のチェック結果例

『アブストラル舌下錠 100μg』

【項目】 相互作用（併用注意）の項

【飲食物】 **グレープフルーツジュース**

【発現事象】 本剤の血中濃度を上昇

【指示】 注意

【理由】 CYP3A4 に対する阻害作用により、本剤の代謝が阻害

医療用医薬品とOTC医薬品の相互作用に対応

医療用医薬品とOTC医薬品の組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

なお、配合剤の場合でも個々の成分を対象にチェックを行います。

例

『エックスフォージ配合OD錠』の添付文書（抜粋）

3. 相互作用		
*併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）・COX-2選択的阻害剤・インドメタシン等	バルサルタンの降圧作用が減弱することがある。	NSAIDs・COX-2選択的阻害剤の腎プロスタグランジン合成阻害作用により、バルサルタンの降圧作用が減弱することがある。

OTC医薬品：『イブA錠』の有効成分

2錠中

イブプロフェン 150mg

アリルイソプロピルアセチル尿素 60mg

無水カフェイン 80mg

相互作用のチェック結果例

『エックスフォージ配合OD錠』

【項目】 相互作用（併用注意）の項

【併用薬剤】 **非ステロイド性消炎鎮痛剤<NSAIDs>** 『イブA錠（**イブプロフェン**）』

【発現事象】 バルサルタンの降圧作用が減弱

【指示】 注意

【理由】 NSAIDs・COX-2選択的阻害剤の腎プロスタグランジン合成阻害作用

OTC医薬品同士の相互作用に対応

OTC医薬品は、添付文書に記載されている相互作用の情報が不明瞭な場合が多いため、医療用医薬品の添付文書に記載されている相互作用情報をOTC医薬品に適用し、データを作成しています。

これにより、医療用医薬品と同じ有効成分を含有する要指導・第1類のOTC医薬品について、全てのOTC医薬品を対象とした組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

例

OTC医薬品の『クラリチンE X』と医療用医薬品の『クラリチン錠10mg』は、有効成分としていずれもロラタジンを含有する製剤です。

『クラリチン錠10mg』の相互作用情報を『クラリチンE X』に適用することで、『クラリチンE X』とOTC医薬品の『アルサメック錠』の組み合わせにおいて、次のようなチェック結果を取得することが可能です。

OTC医薬品：『クラリチンE X』の有効成分

1錠中
ロラタジン 10mg

同一成分

医療用医薬品：『クラリチン錠10mg』の有効成分

1錠中
ロラタジン 10mg

医療用医薬品：『クラリチン錠10mg』の添付文書（抜粋）

3.相互作用		
併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン、シメチジン	ロラタジン及び活性代謝物（DCL）の血漿中濃度の上昇が認められるので、患者の状態を十分に観察するなど注意すること。【薬物動態】の項参照	薬物代謝酵素（CYP3A4、CYP2D6）阻害作用を有する医薬品との併用により、ロラタジンから活性代謝物（DCL）への代謝が阻害され、ロラタジンの血漿中濃度が上昇する。[活性代謝物（DCL）の血漿中濃度が上昇する機序は不明]

OTC医薬品：
『アルサメック錠』の有効成分

1錠中
シメチジン 100mg

相互作用のチェック結果例

『クラリチンE X』

【項目】相互作用（併用注意）の項

【併用薬剤】シメチジン『アルサメック錠（シメチジン）』

【発現事象】ロラタジン及び活性代謝物＜DCL＞の血漿中濃度の上昇

【指示】注意

【理由】薬物代謝酵素（CYP3A4、CYP2D6）阻害作用を有する医薬品との併用により、ロラタジンから活性代謝物（DCL）への代謝が阻害

データベースの機能

相互作用をチェック

医療用医薬品同士、医療用医薬品と飲食物、医療用医薬品とOTC医薬品、OTC医薬品同士のいずれの組み合わせでも、相互作用のチェックを行うことが可能です。

相互作用のチェックを行うことにより、処方内容の監査や患者さんへの服薬指導、又はセルフメディケーションのサポートにご利用いただけます。

チェック結果の表示

「併用薬剤名」や「併用飲食物」、「発現事象」、「投与条件」、「理由」、「指示」などの添付文書の該当箇所を詳しく表示することが可能です。

相互作用の相手薬の検索

任意の薬品に対して、相互作用が発現する可能性のある薬品の有無や、商品名を検索することが可能です。

例

『オノンカプセル112.5mg』の添付文書（抜粋）

2. 相互作用 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
主に CYP3A4 によって代謝さ れる薬剤	本剤及びこれらの薬 剤の血中濃度が上昇 する可能性がある。	本剤は <i>in vitro</i> 試 験で CYP3A4 によ り代謝され、これら の薬剤の代謝を競合 的に阻害するとの報 告がある。
CYP3A4 を阻 害する薬剤 (イトラコナゾール、 エリスロマイシン等)	本剤の血中濃度が上 昇する可能性がある。	<i>in vitro</i> 、 <i>in vivo</i> 試験でこれらの薬剤 により本剤の代謝が 阻害されるとの報告 がある。〔薬物動態〕 の項参照)

CYP3A4によって代謝される薬剤

ルネスタ錠1mg
ザイザル錠5mg
ミカトリオ配合錠

など

CYP3A4を阻害する薬剤

エクリラ400μg ジェヌエA60吸入用
ヴィキラックス配合錠
タケキャブ錠10mg

など